

2026 年 2 月 27 日 記者会見 質疑応答

発表内容：役員異動について

日 時：2026 年 2 月 27 日(金) 16 時 00 分～16 時 35 分

場 所：埼玉県政記者クラブ

発 表 者：埼玉りそな銀行 代表取締役社長 福岡 聡

埼玉りそな銀行 取締役兼専務執行役員 篠藤 慎一

【質疑応答】

Q1. 力を入れたい項目や埼玉りそな銀行をどのような銀行にしていきたいか。

A1. (篠藤)

基本的な経営姿勢や地元重視の方針はしっかりと引き継いでいきます。一方で、変化のスピードが求められる分野については意思決定を迅速にしていきたいと思っています。また、価値共創の源泉は人財であると思っており、これまで以上に従業員の成長を支援し、思いやりや感謝や挑戦が息づく組織文化をつくっていききたいです。

Q2. 6 年間を振り返っての気持ち、会長としてどのように埼玉りそな銀行に関わっていくのか。

A2. (福岡)

6 年の所感ですが、就任したタイミングはマイナス金利でコロナ禍の始まりでした。当時から金利のある世界に戻るだろう、また、世界、埼玉ともにですが少子高齢化などの様々な困難に直面するであろうという未来感をもっていました。他方で、社長就任にあたっては、りそなショックからの学びや我々の初心である渋沢翁の教えに照らして「将来にわたって最も身近で頼りがいのあるパートナーになる」とこの場（社長就任会見）で決心をし、宣言しました。この 6 年間は「日本一暮らしやすい埼玉の実現」と「埼玉県の皆さまに信頼され、地元と埼玉とともに発展する銀行」を目的に未来志向で進化し続ける「道徳銀行」に到達したい、と様々な変革と挑戦をしてきました。まだまだ、描く夢に対しては 6 合目くらいかなと自分では評価をしていますが、自分のもてる力を次世代の育成も含めて力を尽くし切り、一片の悔いもないというのが現在の心境です。むしろこれからの世代に期待を膨らませています。

Q3. 先行きの見えない不透明性の高い 6 年間だったが、どのようなことを意識して取り組んできたか。

A3. (福岡)

コロナ禍という未曾有の事態に始まり、金利環境や経済環境が大きく変わった期間でした。不確実な社会のなかで間違えることなく、また、同じ失敗をしないためにも大事にしていたのは「道徳経済合一」の精神でした。自分がしたいことではなく何が正しいか、の優先順位で社会をみることを常に言い続けた 6 年間でした。

「道徳経済合一」にこだわり続けてきた経営観を現実のものとして変革を進めたり挑戦ができる土壌をつくってきたのは篠藤さんをはじめ次世代の経営陣だと思っています。

Q4. 篠藤新社長への期待について、埼玉りそな銀行の社長としてとりそなグループのなかの埼玉りそな銀行としての2つについて伺いたい。

A4. (福岡)

埼玉りそな銀行単体としては地域金融としての使命、りそなグループとしてはワンプラットフォームとして新しい領域への挑戦ができ、お客さまや地域社会に対してサービス品質を進化させることができる2つのバランスがとれる人財です。グループ戦略部の企画も担ってきたので、挑戦の過程の成功や失敗を私以上に時代に適合する経営ができるのではと期待しています。

Q5. 地域金融力強化プランも踏まえて、これから勝ち残っていく金融機関像は。

A5. (篠藤)

地域金融を取り巻く環境は人口構造や金利環境もあり、経営統合の動きが進むこと自体は自然な流れではないかと思っています。一方で、金融庁の地域金融力強化プランで示されているのは単なる規模の拡大ではなく、地域課題の解決力を高めることです。統合が進んでも地域やお客さまにどういう価値を提供できるのかが問われるべきです。我々は地域のこまりごとを起点に総合的な支援力を高めることが本質だと思っています。その点についてはこれからも変わらず強化していきたいです。

Q6. 後継者に任命するにあたり篠藤新社長をどのような人柄とみているか。

A6. (福岡)

篠藤さんは人間力豊かな人財です。次世代の経営陣はそれぞれ強みを持っていますがなかでも道德銀行に対する信念、「日本一暮らしやすい埼玉」への情熱、地元トップバンクとしての矜持、未来志向のスキル、この4要素で秀でている人財です。なので、私以上に次の時代をつくれる人物です。加えてチャリティー歌謡祭のバトンも渡します。私よりも歌は上手ですが世間で見るとちょうどよい歌唱力です。その点も十分考慮しての人選です。

Q7. どんなことをこれまで学んできたか、次にどのように生かすか。

A7. (篠藤)

変革と挑戦という話がありましたが、変わり続けられないといけないということを3年前の着任時から言われ続けています。我々は過去に過ちを犯しており、お客さまの変化に適合するためにも変わり続けて進化をし続けなければいけない。一方で、守るものは守り続けなくてはならない。金利環境が変わってもお客さま不在の収益追求はせず、ビジネスモデルが変わっても信頼と誠実さは最優先する、どんな時代になっても地域とともに発展していくという不変なもの福岡社長からたくさん勉強させてもらいました。

Q8. りそなHDと業務提携している京葉銀行との関係についてどう考えているか、首都圏全体の地域金融機関の再編は一定程度進むと考えているか。

A8. (篠藤)

京葉銀行との関係は、埼玉りそな銀行が主導で検討している戦略ではないです。りそなホールディングスとしてお客さまのために一緒にできることがあれば提携範囲も広げていくと思いますし、そ

の他の銀行についても、地域の経済力を強化する、お客さまに価値提供していくうえで、自分たちの力だけではなく、周りと一緒にになって提供ができる、その方が蓋然性を高められるのであれば、様々な統合が進んでいくのではないかと思います。一方で、りそなグループとして常に起点にあるのはお客さま・地域にとっての価値がどうなるのか、だと思いますので、そのうえで連携や協業、場合によっては資本関係を含めた様々な選択肢を考えていくこともあると思います。あくまで地域やお客さまのこまりごと解決に資するの可否かという1点で判断していくと考えており、再編によって質の高い価値を通じて、りそなグループは地域やお客さまから信頼される存在であり続けることが、連携や再編を考える基本的なスタンスだと思っています。

首都圏全体でも、起点にあるのは、地域金融機関として、自分たちの地域のお客さまのこまりごとに資する可否かだと思いますが、あくまでりそなグループの考え方ですので、他行の方々が何を優先して再編を進めるのか、については各行の経営戦略のなかで様々な判断があると思います。

Q9. 篠藤新社長に伝えたのはいつ、どういう状況だったのか。

A9. (福岡)

2月中旬に呼んで「社長をやってください」と伝えました。私が受けたときも指名委員会の決議が必要で、この日のためマネージャーの頃からサクセッションプランのもと、様々な経験を積んでもらっていますので、こちらは前からある程度そういう視点で見えていました。3年前に埼玉りそな銀行に着任してもらったときも、他の役員にも聞いて、どの人が次の世代をつくる人なのか、という視点で見えていました。覚悟はある程度持ってもらえていたので、伝えるだけでお互いわかる関係になっていました。

Q10. お互いの共通点と異なる点は。

A10. (福岡)

信念は同じだと思います。道徳銀行やグループパーパス「金融+で、未来をプラスに。」など、グループの目指す世界や埼玉りそな銀行が目指す世界、この地域が目指す世界に対して強いこだわりを持っているか、や道徳銀行の軸を大事にしているかは共通していると思います。

異なるのは、経験が違う領域である点です。私は融資や人事、財務などの企画をしていましたが、篠藤さんはマーケットやコンプライアンス、経営企画をしていました。一部分は重なり、一緒に仕事をすることもありましたが、経験の差があります。また、私は一旦仕事をさせてみて指導していくタイプですが、篠藤さんは常に見ていて手を差し伸べるタイプです。

(篠藤)

共通点は自分の信念をもって行動を考える点です。異なるのは、福岡社長は自分の中で信念をどこまで戦わせて、その戦略を実現するや、その人を育てる、という信頼をしながら任せるという点で、厳しく戦略も磨いていくし、人財も育てていきます。私は少し同様に行う部分があるものの、早いタイミングで手を差し伸べます。それが良かったときもあれば、自分の中でもっと信念を戦わせないと本来目指すべきゴールに達しなかったな、ときもあり、戦略が中途半端で現場やお客さまに迷惑をかけたり、もっと育て上げられたなという部分もあったと思います。今回、社長になるので、社長の立場で方法を変えていく部分もあり、精進したいと思います。

Q11. 会長として、今後銀行業務や埼玉県にどのように関わるか。

A11. (福岡)

銀行業務については、代表権なく執行の立場でもないので、経営そのものは篠藤さんのもとで執行の者に行ってもらいます。私は取締役としてアドバイスや監督をする立場です。関与方法が異なり、篠藤さんにはのびのびとやってもらいたいと思っています。

埼玉県への関与については、経済同友会の代表幹事など既に担っているものもありますが、これまではできなかった地元への貢献という意味では、私で良ければ受けられるものはお受けして力を尽くしたいです。力の尽くし方が、経営に対するものから、より地元に対するものになると思います。

以 上